

# TARO TEAM ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

## 2021 Round.7 SUPERBIKE RACE in AUTOPOLIS



藤本電機工業



**TARO SEKIGUCHI**

# SANMEI Team TARO PLUSONE

## TARO SEKIGUCHI RACE REPORT #9

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 スーパーバイクレース in 九州

大分県・オートポリス (1周=4.674km)

クラス: JSB1000 マシン: BMW S1000RR タイヤ: BRIDGESTONE

2021年9月18日(土) 天候: 曇り コース: ドライ

レース1 予選: 13番手 (タイム: 1分51秒638) 決勝: 11位

2021年9月19日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ

レース2 予選: 12番手 (タイム: 1分52秒044) 決勝: 12位

シリーズランキング: 11位

チームランキング: 10位

観客動員数: 4,700人 (2日間合計)

# TARO



# ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

## 2021 Round.7 SUPERBIKE RACE in AUTOPOLIS

# TARO

## TARO ライバルに打ち勝ちチームランキング 10 位を獲得！

## TARO SEKIGUCHI



早くも2021年シーズンの最終戦を迎えた全日本ロードレース選手権。SANMEI Team TARO PLUSONEにとって、チームランキングで10位以内に入り、トップエントラントの資格を得ることが最大の目標となっていた。前戦岡山ラウンドを終えた時点では、暫定ランキング11位につけており、当面のライバルとなるのは、児玉選手と柳川選手となっていた。



オートポリスラウンドの事前テストは、8月の中旬に行われていたが、鈴鹿で負傷したためキャンセルしていたこともあり、オートポリスを走るのは、ちょうど1年振り。少しでも多く走りたいところだったが、レースウィーク初日となった金曜日は、台風14号が接近しJSB1000クラスは2本目の走行が中止となってしまった。ただ1本目は、ほぼドライコンディションで走ることができていた。しかし、コースインした直後に電気系トラブルが発生し、マシンがストップしてしまう。レッカーに乗ってピットに戻り、スペアバイクに乗り換えて出て行く。その間に、エラーをリセットし、メインバイクで再びコースに戻るがエンジンに問題が出てしまったため、まともに周回できたのは、1、2周と言ったところだった。エンジンに問題が出たため、メカニックはすばやくスペアエンジンに積み替え、翌日の公式予選に備えた。

土曜日の天気は回復方向だったが、JSB1000クラスの公式予選が始まろうというときに雨が降ってくる。路面が濡れている部分もあり、チャンピオンの中須賀選手が転倒するなど、コンディションは決してよくなかった。しかし、関口は、それ以前の問題が発生していた。コースインすると、再び電気系トラブルが発生。スロー走行のままピットに戻り、スペアバイクに乗り換えてタイムアタックし、レース1は13番手、レース2は12番手からスタートすることになっていた。

メインバイクはトラブルが続いたためレース1には、スペアバイクで挑むことを決めていたが、レースウィークに入ってから、レーシングスピードで走った周回は5周くらい。マシンセットも、昨年とは仕様が変わっているため、予測した範囲のものだったが、レースを戦っていた。この辺りは、BMWのすごい部分でもある。



レース1がスタートすると、序盤から津田一磨選手とバトルを繰り広げる。何度か順位を入れかえるも、なかなか前に出られずにいたが、レース終盤に津田選手が第2ヘアピンでコースアウト。これで前に出た関口は11位でゴール。チームランキング争いでは、暫定10位に浮上したが、児玉選手との差は僅かに0.5ポイント。レース2は、とにかく児玉選手の前でゴールすることが絶対条件となっていた。

台風一過の快晴となった日曜日。レース2もスペアバイクで行くことを決めたが、メインバイクからタンクを移植し、レース1を受けてフロントのパネレートを変更。朝のウォームアップ走行で確認したいところだったが、コースイン直後にまたもストップ。これはマイナートラブルで原因が分かっていたため、大きな問題ではなかったが、マシンセットはぶっつけてレース2に臨むことになっていた。

スタートで出遅れた関口は、1コーナーで2台をかわし、さらにオープニングラップ中に2台をかわし、13番手でホームストレートに戻ってくる。何度かセットの決まっていない清成選手と順位を入れかえ前になると、児玉選手のテールをマークする。そのまま周回を重ねレースも折り返しを過ぎた10周目の後半セクションで児玉選手をパス。さらに前を走るライダーを追っていく。後方を走る児玉選手との差が約1秒となったが、集中力を切らさずに18周を走り切り2021年シーズン最後のレースを終えた。

関口は、児玉選手の前でゴールしたため、チームランキング10位を決め、2022年シーズンもトップエントラントとしてエントリーできることになった。ライダーのシリーズランキングでは、11位となっている。



### ■関口太郎コメント

「2021年シーズンも多くの応援、本当にありがとうございました。何とかチームランキング10位となりホッとしています。SANMEI Team TARO PLUSONEとして型落ちのBMW S1000RRで戦いましたが、ほぼスタンダードにも関わらず、全日本ロードレース選手権の最高峰クラスを戦えたのは、バイクの持つポテンシャルが高いことを証明しています。来シーズンは、新型にスイッチして引き続き、JSB1000クラスを戦う予定です。引き続き、ご支援いただけますよう、お願い申し上げます！」



# TARO

このリリースへのお問い合わせは、  
下記メールアドレスまでお願いいたします。  
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com